

の実情に合わせて、独自のセミナーの開催による広報・啓発や研究などを行う。

C. 研究成果

1. 平成23年度東海ブロック連絡協議会の開催

◇第1回

開催日：平成23年6月17日（金）

会場：じゅうろくプラザ（岐阜市） 参加40名  
プログラム

- ①各県における支援事業の実施状況について  
—今年度の動きや課題、特色や取り組みについて
- ②事例検討会 「診断・支援の困難事例」  
—4県から1事例ずつ  
—支援経過・神経心理検査データ・画像データを発表。障害認識、精神症状、家族支援などについて意見交換

◇第2回

開催日：平成24年1月20日（金） 参加50名

会場：TKP浜松（浜松市）

プログラム

- ①各県における支援事業の実施状況について  
—今年度の動きや課題、特色や取り組みなどについて報告
- ②事例検討会 「長期未介入事例」  
—4県から1事例ずつ。支援の経過、困難原因や成功原因などについて意見交換した

2. 各県の23年度活動状況

【静岡県】

◇ 支援拠点機関

圏域名	支援拠点機関
駿東田方圏域	相談支援センターきさらぎ ((055)967-5952)
富士圏域	障害者生活支援センターくぬぎの里 ((0545)35-5589)
静岡圏域	障害者地域サポートセンター北斗 ((054)278-7828)
志太榛原圏域	暁 ((054)620-9202)
中東遠・西部圏域	ナルド ((053)437-4609)
県全体	聖隷三方原病院 ((053)436-1251)
	高次脳機能障害サポートネット ((054)622-7405)

◇ 支援コーディネーター（人） 16名

◇ 数値実績

(1) 拠点機関相談数（件）	
来所	971
訪問	1291
電話連絡等	2728
(2) 拠点機関ケース検討会	
開催回数(回)	100
参加者数(人)	576
(3) 拠点機関支援ネットワーク連絡会（回）	
開催回数(回)	11
参加者数(人)	408
(4) 医療等総合相談（県健康福祉センター・保健所）	
回数(回)	22
延人数(人)	58
(5) 支援従事者研修（県健康福祉センター・保健所）	
参加者数(人)	866
(6) 事業検討専門家委員会（県）	
回数(回)	2

◇ 活動実績

(1) 連絡協議会

高次脳機能障害地域基盤整備事業検討専門家会議

①平成23年8月1日

②平成24年3月14日

(2) 医療等総合相談

・全健康福祉センター・保健所（7か所）において、  
延22回 利用者 延58人

(3) 支援従事者研修

・県及び県健康福祉センター・保健所による研修 6回  
参加者 延375人

（対象：医療従事者、福祉関係者、就労支援関係者、行政関係者等）

・拠点病院による研修 延3回 参加者 延491人  
（対象：医師、OT、PT、ST等）

・支援コーディネーター連絡会（事例検討・情報共有等）4回 出席者 延50人  
（対象：支援拠点機関の支援コーディネーター）

◇その他、別紙資料に詳細記載

【岐阜県】

◇ 支援拠点機関：岐阜県精神保健福祉センター

支援拠点病院：社会医療法人厚生会木沢記念病院

◇ 支援コーディネーター：1名（拠点病院に配置）

◇ 支援体制：保健圏域ごとの支援体制の整備を推進している。

◇ 数値実績

(1) 拠点機関相談数 (件)	
来所	89
訪問	23
電話連絡等	45
(2) 拠点機関連携数 (件)	
来所	0
訪問	0
電話連絡等	110
(3) 連絡会・協議会 (回)	
主催	3
講師等協力	5
(4) 研修会・講習会 (回)	
主催	4
講師等協力	9
(5) ケース会議・勉強会等 (回)	
主催	0
講師等協力	6

#### ◇ 活動実績

##### (1) 高次脳機能障害支援対策推進委員会

県保健医療課・支援拠点機関担当者・圏域支援コーディネーターなどが県内5圏域、合計12医療機関を訪問し、その機関の長および外来担当医・リハビリスタッフに対し、リハビリテーションや外来受診の受け入れについて協力を依頼した。その結果、協力医療機関・協力医の内諾を得て、平成24年1月に正式に協力医療機関として指定した。これと合わせて、養成中の圏域支援コーディネーターの所属機関・県内4圏域1ヶ所ずつを、地域支援協力機関として正式に指定した。これらの支援体制の整備推進状況については、平成23年9月13日・平成24年2月22日に開催した、支援対策推進委員会で委員に報告・検討した。

##### (2) 相談支援

相談支援は支援拠点機関・支援拠点病院・当事者通所施設で実施した。相談件数は前記したとおりである。さらに内訳を検討すると、今年度は、支援拠点病院への電話相談が増加した一方で、支援拠点機関の相談日の予約状況にはムラがあった。

##### (3) 普及啓発活動

県内各地で以下に記した研修会を実施した。

- ① 高次脳機能障害が普及啓発研修会<中濃地域>. 主催：岐阜県精神保健福祉センター H23. 10. 1, 可茂総合庁舎にて 講師：岐阜医療科学大学. 阿部順子氏 参加者：98名
- ② 高次脳機能障害が医療従事者研修会. 主催：岐阜県医師会 H23. 10. 8, 高山市保健センターにて 講師：東京慈恵会医科大学. 梶間 剛氏 参加者：50名
- ③ 高次脳機能障害が普及啓発研修会<岐阜地域>. 主催：岐阜県精神保健福祉センター H23. 12. 5, 羽島市

文化センターにて 講師：国立成育医療研究センター. 橋本圭司氏 参加者：140名

- ④ 岐阜高次脳機能障がいフォーラム. 主催：岐阜県精神保健福祉センター・リハビリテーション講習会実行委員会 H24. 1. 28, ふれあい福祉会館にて 講師：筑波記念病院. 山里道彦氏 帝京平成大学大学院. 中島恵子氏 参加者：130名

##### (4) 圏域相談支援コーディネーターの養成

平成22年度から開始した、高次脳機能障害圏域相談支援コーディネーター養成事業を継続した。県内4圏域、各1ヶ所ずつの事業所・各1名ずつの職員に対して、平成24年度までの3年間に研修を行い、圏域ごとの支援コーディネーターの養成を目指している。今年度は、当事者通所施設など関連機関の見学、支援対策推進委員会へのオブザーバー参加、協力医療機関の依頼への同行などを行った。

◇ その他、別紙資料に詳細記載

#### 【愛知県】

##### ◇ 支援拠点機関

名古屋市総合リハビリテーションセンター  
電話 (052) 835-3811

◇ 支援コーディネーター：3名

##### ◇ 支援体制

支援拠点機関の特徴として『総合拠点方式』と『開放型循環システム』があげられる。これらは高次脳機能障害者の支援に有効性を発揮している。

##### ◇ 数値実績

来所	89
訪問	23
電話連絡等	45
(2) 拠点機関連携数 (件)	
来所	0
訪問	0
電話連絡等	110
(3) 連絡会・協議会 (回)	
主催	3
講師等協力	5
(4) 研修会・講習会 (回)	
主催	4
講師等協力	9
(5) ケース会議・勉強会等 (回)	
主催	0
講師等協力	6

◇ 活動実績

(1) 訓練実績

- ① 生活訓練入所実績（うち身体障害者手帳未所持）／自立支援法：自立訓練
- ・ 入所者=94名（27名）-うちTBI19名、CVA42名
  - ・ 退所者=58名
- ② 職能訓練利用の実績（うち身体障害者手帳未所持）／自立支援法：就労移行支援
- ・ 利用者=105名（53名）
  - ・ 退所者=64名（33名）-うち一般就労34名（21名）

(2) 委員会・講習会の開催、研修会講師

- ① 高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連携調整委員会 H23/9/28 H24/3/21
- ② 講習会・研修会
- H23/10/8 脳外傷リハビリテーション講習会  
H24/2/18 高次脳機能障害専門家研修  
H24/2/25 高次脳機能障害者生活適応援助者(生活版JC)養成研修報告会
- ③ 主な研修会講師等（愛知県内）
- ・ 名古屋市障害福祉事務担当者会議
  - ・ 愛知県相談支援従事者初任者研修
  - ・ 岡崎保健所高次脳研修会
  - ・ 愛知県精神保健福祉センター担当者研修
  - ・ 愛知県認定看護師協会研修
  - ・ ほか

(3) その他の主な活動

- ・ 第20回日本交通医学工学研究会・学術総会（メインテーマ：高次脳機能障害）の開催
- ・ 高次脳機能障害者生活適応援助者(生活版ジョブコーチ)養成研究事業（21～23年度）  
—DVD、報告書作成
- ・ 名古屋リハ高次脳機能障害見学・研修会
- ・ 高次脳機能障害関連団体との協力強化  
—訓練委託、拠点機関での家族会相談会、連絡会（事例検討等）
- ・ 高次脳機能障害「解体新書」の発刊
- ・ リーフレットの改定・刊行—名古屋リハ、愛知脳損傷協議会（ABIA）
- ・ MTBIの自賠償における高次脳機能障害非該当事例（画像陰性事例）の調査への積極的協力

◇ その他、別紙資料に詳細記載

【三重県】

◇ 支援拠点機関

三重県身体障害者総合の駆使センター  
電話 (059) 231-0037

◇ 支援コーディネーター：1.5人

◇ 支援体制

三重県でのシステムを別名、三重県モデルと呼称する。これは「高次脳機能障害者に対して診断、訓練や生活支援（地域生活）をシステムチック（systematic）に包括的リハビリテーションを行うもの」であり、その実施する高次脳機能障害者包括的リハビリテーションネットワークのことである。

(1) 拠点病院との連携

① 松阪中央総合病院

主に急性期リハを担当し、診断・外来による認知リハ及び三重県モデルを通過したケースのアフターフォローを実施している。

② 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

主に回復期病棟における入院治療訓練を担当し、三重県モデルにおいては、入院による認知リハを実施している。

(2) 三重県身体障害者総合福祉センターの役割

臨床心理士を配置し、神経心理学的評価および認知リハ、職業リハを実施している。平成16年度からは支援コーディネーターを配置し、総合的な相談・直接的また間接的な支援、アフターフォローを実施している。機能については、大きく下記の3つになる。

① 県内の高次脳機能障害者（児）の総合相談窓口

② 医学・生活・社会・職業リハビリテーションを担当

—高次脳機能障害者は、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、生活介護での利用となっている（総定員 入所40名 日中活動60名の通過型訓練施設）

③ 啓発普及

- ・ 高次脳機能障害者地域支援セミナーの開催年2回実施
- ・ 高次脳機能障害者（児）リハビリテーション講習会（当事者・家族・支援者・医療職対象に平成23年度1回実施＝日本損害保険協会助成）
- ・ 各関係機関（福祉、行政、学校等）を対象とした研修会の開催協力（随時対応）
- ・ 情報発信 身障センターホームページ

(3) 医療機関との連携強化

松阪中央総合病院、藤田保健衛生大学七栗サナトリウムの拠点病院との連携に加え、高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターによる訪問面接などを通じて、北中勢地域の急性期病院、回復期病院など、医療機関との連携も行っている。

◇ 数値実績

(1) 拠点機関相談数 (件)	
来所	410
訪問	326
電話連絡等	567
(2) 拠点機関連携数 (件)	
来所	15
訪問	259
電話連絡等	578
(3) 連絡会・協議会 (回)	
主催	2
講師等協力	2
(4) 研修会・講習会 (回)	
主催	2
講師等協力	5
(5) ケース会議・勉強会等 (回)	
主催	8
講師等協力	42

◇ 活動実績

(1) 相談支援体制連携調整委員会の開催

(2) 啓発・普及活動

① 高次脳機能障害者地域支援セミナー

<平成23年度 高次脳機能障害者地域支援セミナー>

「第21回高次脳機能障害者地域支援セミナー」

平成23年5月29日(日) 三重県身体障害者総合センター 参加者69名

「第22回高次脳機能障害者地域支援セミナー」

平成24年2月12日(日) 松阪中央総合病院 参加者69名

② 平成23年度 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会

平成23年10月10日 会場：四日市市文化会館  
地域：北勢地区(四日市市) 参加：84名

③ 講演会・学習会での講演および発表実績

- ・村田順一：「三重県健康福祉部」「相談支援従事者初任者研修 相談支援の実践 基礎知識編」
- ・鈴木真：「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター」「平成23年度職業リハビリテーション実践セミナー 支援ネットワークの形成とその活用」
- ・鈴木真：「三重県健康福祉部」「相談支援従事者現任者研修 高次脳機能障がい者生活支援事業について」
- ・鈴木真：「障害者就業・生活支援センター 東海・北陸ブロック」「障害別の就労支援について(高次脳機能障害)」
- ・田辺佐知子：「三重県障害者相談支援センター 相

談支援部会」「事例検討会」

- ・田辺佐知子：「精神保健福祉担当保健師等勉強会」「高次脳機能障害者への支援について」

③ 視察・研修対応

平成23年11月30日、社会福祉法人釧路のぞみ協会からの視察受け入れ。 視察者4名

◇ その他、別紙資料に詳細記載

D. 考察

高次脳機能障害支援普及事業、厚生労働科学研究が開始された平成18年度以降、東海ブロック各県においては、それぞれの地域性はあるものの、不足部分については地域のネットワークにより補完しあい、それぞれの支援機関においては支援力をアップさせることで、高次脳機能障害者の支援体制が徐々にではあるものの確立されてきた。

平成21年度以降の「高次脳機能障害者の地域生活支援に関する研究」についても同様で、今年度も連絡協議会はそれを確認する場として、また科研費は各県の高次脳機能障害者支援の研究および普及活動に寄与している。

E. 結論

各県の成果は、各県活動報告に詳細記載。

なお、厚生労働科学研究については、上記考察で述べたとおりで、高次脳機能障害者支援に寄与するものであるだけに、今後も継続されることが望まれる。

F. 健康危険情報

—

G. 研究発表

別紙各県活動報告・研究成果刊行参照。

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

静岡県 平成 23 年度報告

静岡県					
支援拠点 機関 (電話)	賀茂・熱海伊東圏域	オリブ ((0558)-43-3131)			
	駿東田方圏域	相談支援センターきさらぎ ((055)967-5952)			
	富士圏域	障害者生活支援センターくぬぎの里 ((0545)35-5589)			
	静岡圏域	障害者地域サポートセンター北斗 ((054)278-7828)			
	志太榛原圏域	暁 ((054)620-9202)			
	中東遠・西部圏域	ナルド ((053)437-4609)			
	県全体	聖隷三方原病院 ((053)436-1251)			
		高次脳機能障害サポートネットしずおか ((054)622-7405)			
支援コーディネーター数		16名			
直接支援拠点機関相談数		電話 2,728件	来院来所 971件	メール書簡 563件	その他 728件
間接支援拠点機関連携数		電話 742件	来院来所 313件	メール書簡 215件	その他 142件
支援拠点機 関活動実績		連絡会・協議会	研修会・講習会	ケース会議	勉強会・家族会
	主催（開催 数・参加者）	11回 408人	10回 1,059人	100回 576人	108回 4,254人
	講師等協力	29回	30回	21回	66回
その他活動	冊子、ウェブサ イド、執筆ほ か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター「高次脳機能障害をご存じですか？」</li> <li>・リーフレット「高次脳機能障害者への理解と支援のために」</li> <li>・ちらし「病気や事故の後、何か変わった？」</li> </ul> ほか			

23 年度の実績（講習会の開催等）

<連絡協議会>

- ・高次脳機能障害地域基盤整備事業検討専門家会議

①平成 23 年 8 月 1 日

②平成 24 年 3 月 14 日

<医療等総合相談>

- ・全健康福祉センター・保健所（7か所）において、延 22 回 利用者 延 58 人

<支援従事者研修>

- ・県及び県健康福祉センター・保健所による研修 6 回 参加者 延 375 人

（対象：医療従事者、福祉関係者、就労支援関係者、行政関係者等）

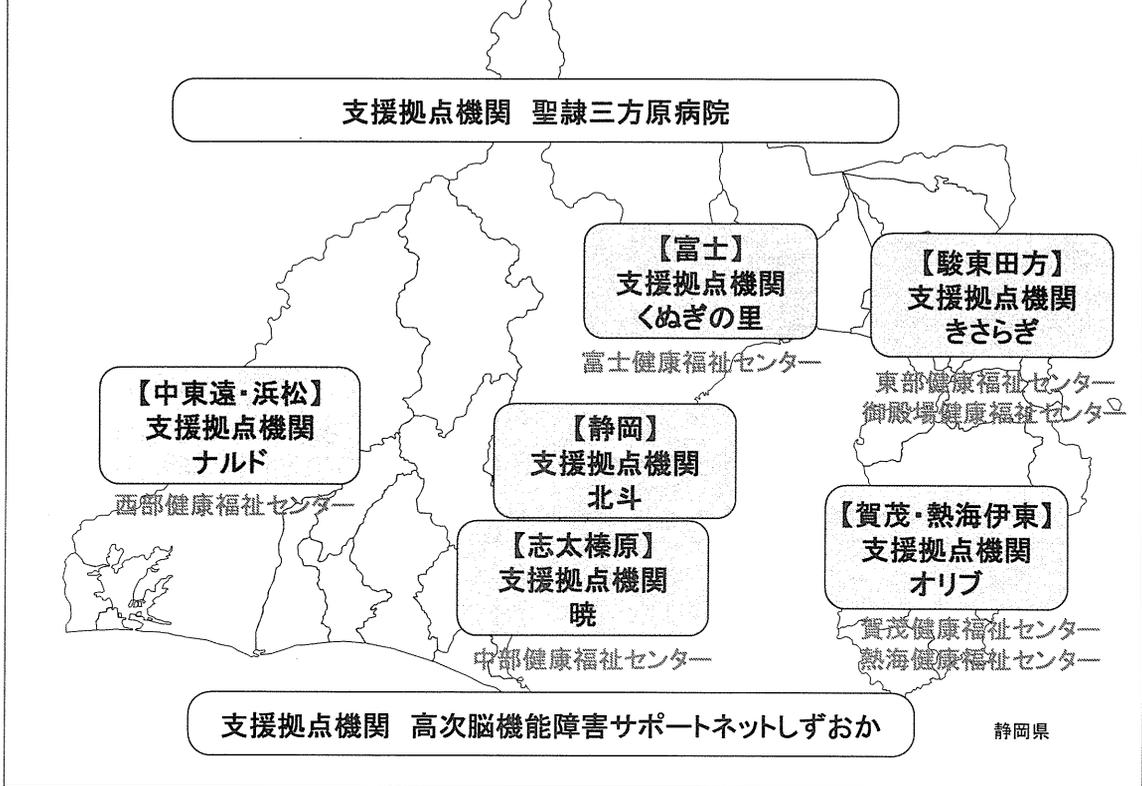
- ・拠点病院による研修 延 3 回 参加者 延 491 人

（対象：医師、OT、PT、ST 等）

- ・支援コーディネーター連絡会（事例検討・情報共有等）4 回 出席者 延 50 人

（対象：支援拠点機関の支援コーディネーター）

平成23年度支援拠点機関と県健康福祉センター(保健所)



今後の課題

- 1 医療機関での障害の見落としの予防  
医療機関での障害の見落としをなくし、受傷後早期の対応及び訓練が行われるよう、医療従事者の障害理解をすすめる。
- 2 支援従事者、一般県民の障害理解のための啓発  
支援従事者、当事者家族、一般県民に対する啓発や研修等を継続し、障害の理解を促進し適切な支援に繋げる。
- 3 関係機関による地域支援ネットワークづくり  
診断・評価に基づき連続したケアが身近な地域でできるよう、医療機関を中心に据えた地域支援ネットワークづくりをすすめる。
- 4 支援の地域間格差の解消  
支援従事者の研修や情報交換等を行い、支援コーディネーター等の資質の向上を図ることでより支援の地域間格差の解消をめざす。
- 5 新しい動きの効果的な活用  
高次脳機能障害に特化した障害者自立支援法による就労移行支援・自立訓練（生活訓練）事業所の開設や高次脳機能障害者の就労継続を支援するナイトサロンの開催など、新たな動きを限定的な利用にとどまらせることなく、効果的な活用をすすめる。

## 1. 支援体制

- ・支援拠点機関：岐阜県精神保健福祉センター
- ・支援拠点病院：社会医療法人厚生会 木沢記念病院
- ・支援コーディネーター：1名・支援拠点病院に配置している。
- ・支援体制：保健圏域ごとの支援体制の整備を推進している。支援体制図は別に記載した。

## 2. 数字実績

### (1) 拠点機関相談数

来所 89 件 訪問 23 件 電話連絡等 45 件

### (2) 拠点機関連携数

来所 0 件 訪問 0 件 電話連絡等 110 件

### (3) 連絡会・協議会

主催 3 回 講師等協力 5 回

### (4) 研修会・講習会

主催 4 回 講師等協力 9 回

### (5) ケース会議・勉強会等

主催 0 回 講師等協力 6 回

## 3. 実績

### (1) 東海ブロック連絡協議会の開催

開催日時：平成 23 年 6 月 17 日（金）13：00～16：15

会 場：じゅうろくプラザ（岐阜市）

参加人数：39 名

内 容：①各県における支援事業の実施状況について—各県の今年度の動きや課題、色や取り組みについて報告 ②事例検討会「診断や支援に困っている事例」—4 県から 1 事例ずつ支援経過・神経心理検査データ・画像データを発表。障害認識、精神症状、家族支援などについて意見交換した。

### (2) 高次脳機能障害支援対策推進委員会

県保健医療課・支援拠点機関担当者・圏域支援コーディネーターなどが県内 5 圏域、合計 12 医療機関を訪問し、その機関の長および外来担当医・リハビリスタッフに対し、リハビリテーションや外来受診の受け入れについて協力を依頼した。その結果、協力医療機関・協力医の内諾を得て、平成 24 年 1 月に正式に協力医療機関として指定した。これと合わせて、養成中の圏域支援コーディネーターの所属機関・県内 4 圏域 1 ヶ所ずつを、地域支援協力機関として正式に指定した。これらの支援体制の整備推進状況については、平成 23 年 9 月 13 日・平成 24 年 2 月 22 日に開催した、支援対策推進委員会で委員に報告・検討した。

### (3) 相談支援

相談支援は支援拠点機関・支援拠点病院・当事者通所施設で実施した。相談件数は前記したとおりである。さらに内訳を検討すると、今年度は、支援拠点病院への電話相談が増加した一方で、支援拠点機関の相談日の予約状況にはムラがあった。

#### (4) 普及啓発活動

県内各地で以下に記した研修会を実施した。外部講師を招いての講演で普及啓発活動を行った他、相談状況や支援体制の整備状況の報告も行った。また、記した以外の研修会等でも支援拠点病院の医師や支援コーディネータが講師として高次脳機能障害に関する知識の普及に努めた。さらに、岐阜県精神保健福祉センターホームページにリーフレットや講演会情報を掲載した。

1. 高次脳機能障がい普及啓発研修会<中濃地域>。主催：岐阜県精神保健福祉センター H23. 10. 1, 可茂総合庁舎にて 講師：岐阜医療科学大学. 阿部順子氏 参加者：98名
2. 高次脳機能障がい医療従事者研修会。主催：岐阜県医師会 H23. 10. 8, 高山市保健センターにて 講師：東京慈恵会医科大学. 櫻間 剛氏 参加者：50名
3. 高次脳機能障がい普及啓発研修会<岐阜地域>。主催：岐阜県精神保健福祉センター H23. 12. 5, 羽島市文化センターにて 講師：国立成育医療研究センター. 橋本圭司氏 参加者：140名
4. 岐阜高次脳機能障がいフォーラム。主催：岐阜県精神保健福祉センター・リハビリテーション講習会実行委員会 H24. 1. 28, ふれあい福祉会館にて 講師：筑波記念病院. 山里道彦氏 帝京平成大学大学院. 中島恵子氏 参加者：130名

#### (5) 圏域相談支援コーディネーターの養成

平成22年度から開始した、高次脳機能障害圏域相談支援コーディネーター養成事業を継続した。県内4圏域、各1ヶ所ずつの事業所・各1名ずつの職員に対して、平成24年度までの3年間に研修を行い、圏域ごとの支援コーディネーターの養成を目指している。今年度は、当事者通所施設など関連機関の見学、支援対策推進委員会へのオブザーバー参加、協力医療機関の依頼への同行などを行った。

#### 4. 研究発表

##### (1) 学会発表

1. 和田哲也, 浅野好孝, 糟谷幸徳, 篠田 淳: 高次脳機能障害患者における受傷時意識消失時間と日常生活能力・精神機能・DTI (FA) との関係. 第65回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2011. 6. 6
2. 和田哲也, 浅野好孝, 幅 拓矢, 松本 優, 糟谷幸徳, 槇林 優, 篠田 淳 (シンポジウム): 高次脳機能障害患者における受傷時意識消失時間とADL・精神機能・DTI との関係. 第20回日本意識障害学会. 弘前市, 2011. 9. 2-3
3. 松本 淳, 秋 達樹, 西山紀郎, 兼松由香里, 米澤慎悟, 竹中俊介, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部交通外傷後遷延性意識障害患者に対する鍼治療効果の検討. 第20回日本意識障害学会. 弘前市, 2011. 9. 2-3
4. 奥村由香, 浅野好孝, 糟谷幸徳, 秋 達樹, 米澤慎悟, 豊島義哉, 兼松由香里, 槇林 優, 篠田 淳: 遷延性意識障害患者の認知機能について -聞き分け課題を用いたfMRIによる検討-. 第20回日本意識障害学会. 弘前市, 2011. 9. 2-3
5. 吉田愛菜, 和田哲也, 幅 拓矢, 井戸宏美, 槇林 優, 浅野好孝, 篠田 淳: 慢性意識障害患者のコミュニケーション獲得への一試策. 第20回日本意識障害学会. 弘前市, 2011. 9. 2-3
6. 奥村由香, 浅野好孝, 糟谷幸徳, 加藤玲子, 柴田あゆみ, 池戸友梨, 豊島義哉, 篠田 淳: 遷延性意識障害患者の聴覚認知について. 聞き分け課題を用いたfMRI脳賦活試験による検討. 第27回岐阜県病院協会医学会. 岐阜市, 2011. 10. 9
7. 酒井那実, 池場亜美, 池戸友梨, 柴田あゆみ, 嶽 和香奈, 永瀬加奈子, 高井千恵,

中村千恵, 初瀬尾朋香, 村瀬聖枝, 豊島義哉, 秋 達樹, 浅野好孝, 篠田 淳: 重症頭部外傷後遺症後の ADL 向上に伴い高次脳機能障害改善を呈した一例. 第 27 回岐阜県病院協会医学会. 岐阜市, 2011. 10. 9

8. 伊東慶一, 竹中俊介, 米澤慎悟, 秋 達樹, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部外傷後の高次脳機能障害診断に対する FDG-PET と ECD-SPECT の有用性. 第 70 回日本脳神経外科学会総会. 横浜市, 2011, 10. 12-14
9. 浅野好孝, 米澤慎悟, 秋 達樹, 三輪和弘, 伊藤 毅, 横山和俊, 篠田 淳: FDG-PET による軽度脳損傷患者の高次脳機能障害の評価. 第 70 回日本脳神経外科学会総会. 横浜市, 2011, 10. 12-14
10. 篠田 淳, 浅野好孝, 丹羽伸也, 松久 卓: 脳腫瘍患者の高次脳機能障害行政認定について. 第 29 回日本脳腫瘍学会, 下呂市. 2011. 11. 27-29
11. 松本 淳, 秋 達樹, 西山紀郎, 兼松由香里, 米澤慎悟, 竹中俊介, 浅野好孝, 篠田 淳: 頭部交通外傷後遷延性意識障害者に対する鍼治療の試み(第 4 報) - 運動誘発電位を用いた検討 -. 第 66 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2011. 12. 1
12. 秋 達樹, 米澤慎悟, 浅野好孝, 篠田 淳, 岩間 亨: 定量 FDG-PET 測定を用いた頭部外傷後遺症・遷延性意識障害患者の長期経過の検討. 第 66 回岐阜臨床神経集談会. 岐阜市, 2011. 12. 1

- (2) 書籍・雑誌  
別に記載。

## 5. 今後の課題

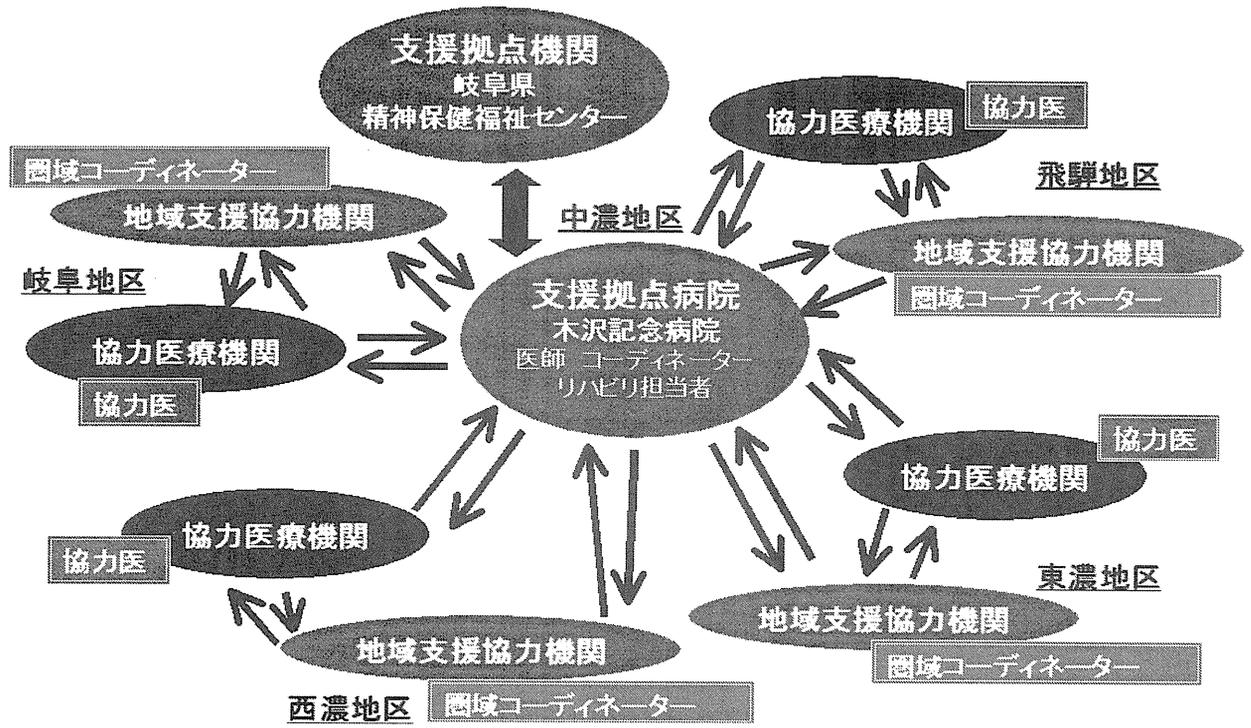
### (1) 24 年度の予定

- \* 指定した協力医療機関・地域支援協力機関の関係者が集まり、情報交換や研修を行う場(=ネットワーク会議)を設置する。
- \* 普及啓発用リーフレットの改訂を行い、協力機関を掲載する。
- \* 精神保健福祉センターでの相談日を再検討し、代わりに、支援コーディネーターが各圏域の地域支援協力機関を訪問することなども検討する。
- \* 圏域相談支援コーディネーター養成事業では、近隣の県の支援拠点機関の見学などを新たな研修内容として検討する。

### (2) 地域の問題点・施策上の困難

- \* 通所訓練だけでは対応しきれない、入所訓練が必要なケースがあるため、生活訓練+作業訓練(日中活動)の場が必要だが、そういった機能を有した拠点施設がない。
- \* 相談件数や協力機関との連携業務の増加が見込まれるため、これに対応するには今以上のマンパワーが必要だが、支援コーディネーターは兼務の状態である。

# 《岐阜県 高次脳機能障害支援体制図》



**三重県 平成23年度報告**  
**(三重県・三重県身体障害者総合福祉センター)**

**1. 三重県高次脳機能障がい者生活支援事業の概要**

＜事業実施期間＞

「三重県高次脳機能障がい者生活支援事業」平成23年4月1日～平成24年3月31日現在  
＜実施主体＞

三重県・三重県身体障害者総合福祉センター

＜概要＞

高次脳機能障がい者生活支援事業での三重県でのシステムを別名、三重県モデルと呼称する。これは「高次脳機能障害者に対して診断、訓練や生活支援（地域生活）をシステムチック(systematic) に包括的リハビリテーションを行うもの」であり、その実施する高次脳機能障害者包括的リハビリテーションネットワークのことである。

ア. 拠点病院との連携

① 松阪中央総合病院

主に急性期リハを担当し、高次脳機能障害診断・外来による認知リハビリテーション及び三重県モデルを通過したケースのアフターフォローを実施している。

② 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム

主に回復期病棟における入院治療訓練を担当し、三重県モデルにおいては、入院による認知リハビリテーションを実施している。

イ. 三重県身体障害者総合福祉センター（以下「身障センター」）の役割

身障センターでは、臨床心理士を配置し、神経心理学的評価および認知リハビリテーション、職業リハビリテーションを実施している。また、平成16年度からは高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターを配置し、総合的な相談・直接的また間接的な支援、アフターフォローを実施している。機能については、大きく分けて下記の3つになる。

① 県内の高次脳機能障害者(児)からの総合相談窓口

② 医学・生活・社会・職業リハビリテーションを担当

障害者自立支援法の施行にともない、高次脳機能障害者は、自立訓練（機能訓練・生活訓練）、就労移行支援、生活介護での利用となっている。

（総定員 入所40名 日中活動60名の通過型訓練施設）

③ 啓発普及

- ・ 高次脳機能障害者地域支援セミナーの開催 年2回実施
- ・ 高次脳機能障害者（児）リハビリテーション講習会  
（当事者・家族・支援者・医療職対象に平成23年度1回実施＝日本損害保険協会助成）
- ・ 各関係機関（福祉、行政、学校等）を対象とした研修会の開催協力（随時対応）
- ・ 情報発信 身障センターホームページ <http://www.mie-reha.jp/>

ウ. 医療機関との連携強化

松阪中央総合病院、藤田保健衛生大学七栗サナトリウムの拠点病院との連携に加え、高次脳機能障害者（児）支援コーディネーターによる訪問面接などを通じて、北中勢地域の急性期病院、回復期病院など、医療機関との連携も行っている。

**2. 相談支援体制連携調整委員会の開催**

高次脳機能障がい者生活支援事業が円滑且つ適正に運営されるために連携調整委員会が設置されている。委員については、拠点病院医師、三重大学医学部医師、医療相談担当者、行政・労働機関関係者、当事者団体代表などから構成されている。

＜平成23年度 相談支援体制連携調整委員会 委員＞

所 属・職 名	氏 名
藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム 病院長	園田 茂(委員長)
三重大学医学部 看護学科 基礎看護学 教授	成田 有吾(副委員長)

三重大学医学部 脳神経外科 准教授	松島 聡(副委員長)
鈴鹿中央総合病院 精神神経科 部長	川喜田 昌彦
松阪中央総合病院 リハビリテーション科医長	尾関 保則
脳外傷友の会三重TBI ネットワーク(当事者団体) 会長	古謝 由美
三重県医療ソーシャルワーカー協会 相談役 皇學館大学 現代日本社会学部 教授	山路 克文
三重障害者職業センター 所長	川名 信夫
三重県教育委員会事務局 特別支援教育室 副室長	井坂 誠一
三重県健康福祉部 障害福祉室 室長	西村 昭彦
三重県障害者相談支援センター 所長	榎本 英典
三重県身体障害者総合福祉センター 所長	北 民雄
三重県身体障害者総合福祉センター 診療チームマネージャー	神田 仁
学識経験者 藤田保健衛生大学 医療科学部リハビリテーション学科 教授	太田 喜久夫
学識経験者 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 保健科学部門 口腔保健学講座 地域医療福祉学分野 教授	白山 靖彦

(事務局) 三重県障害者相談支援センター 地域支援課 課長	堀山 由実
(事務局) 三重県健康福祉部 障害福祉室 副室長	板崎 寿一
(事務局) 三重県身体障害者総合福祉センター 経営企画チーム グループリーダー	鈴木 真
(事務局) 三重県身体障害者総合福祉センター 支援チーム 訓練・相談グループ	伊藤 ひとみ
(事務局) 三重県身体障害者総合福祉センター 支援チーム 訓練・相談グループ	田辺 佐知子

<平成23年度 相談支援体制連携調整委員会 開催実績>

開催日(開催予定日)	場所	委員出席者数
平成23年7月7日	三重県身体障害者総合福祉センター	18名
平成24年3月15日	三重県身体障害者総合福祉センター	15名

内容は、高次脳機能障がい者生活支援事業における事業のあり方、障害者自立支援法の情報提供、相談・支援状況報告、研修会開催報告、各種研究などである。

### 3. 啓発・普及活動

#### ア. 高次脳機能障害者地域支援セミナー

本セミナーは、「高次脳機能障害」を多角的に研修するために、見識者による基調講演を主たる内容とした研修会である。対象は、医師・PT・OT・ST・MSWなどの医療関係者、市町福祉などの行政関係者、福祉施設職員及び当事者・家族である。

<平成23年度 高次脳機能障害者地域支援セミナー 開催状況>

「第21回高次脳機能障害者地域支援セミナー」

平成23年5月29日(日) 13時～16時30分

三重県身体障害者総合センター 大研修室

講師：松阪中央総合病院 リハビリテーション科医長 尾関 保則氏  
脳外傷友の会 三重TBI ネットワーク代表 古謝 由美氏  
三重県身体障害者総合福祉センター 訓練・相談グループ

参加者69名(定員50名)

「第22回高次脳機能障害者地域支援セミナー」

平成24年2月12日(日)13時~16時30分

松阪中央総合病院 多目的ホール

講師: 藤田保健衛生大学 七栗サナトリウム

リハビリテーション科 成田 渉氏

松阪中央総合病院 リハビリテーション科 作業療法士 田中 一彦氏

脳外傷友の会 三重TBIネットワーク代表 古謝 由美氏

三重県身体障害者総合福祉センター 訓練・相談グループ

相談支援専門員 田辺

参加者69名(定員100名)

#### イ. 学会発表

○今年度、なし。

#### ウ. 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会の開催

日本損害保険協会より助成を受け、脳外傷友の会三重TBIネットワークが、三重県高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会を実施している。家族等に対する相談支援の一環として、相談支援体制連携調整委員会のうち、若干名で委員を構成し(三重県高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会実行委員会)、当事者・家族を対象としたリハビリテーション講習会を開催した。

<平成23年度 高次脳機能障害者(児)リハビリテーション講習会 開催実績>

日時	地域	開催場所	参加者数
平成23年10月10日	北勢地区(四日市市)	四日市市文化会館	84名

#### エ. 講演会・学習会での講演および発表実績

- ① 村田 順一:平成23年7月22日「三重県健康福祉部」  
「相談支援従事者初任者研修 相談支援の実践 基礎知識編」 69名
- ② 鈴木 真:平成23年8月6日  
「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター」  
「平成23年度職業リハビリテーション実践セミナー 支援ネットワークの形成とその活用」 参加97名
- ③ 鈴木 真:平成23年8月31日「三重県健康福祉部」  
「相談支援従事者現任者研修 高次脳機能障がい者生活支援事業について」 参加48名
- ④ 鈴木 真:平成23年11月19日「障害者就業・生活支援センター 東海・北陸ブロック」  
「障害別の就労支援について(高次脳機能障害)」 参加51名
- ⑤ 田辺 佐知子:平成24年1月11日「三重県障害者相談支援センター相談支援部会」  
「事例検討会」 参加24名
- ⑥ 田辺 佐知子:平成24年1月17日「精神保健福祉担当保健師等勉強会」  
「高次脳機能障害者への支援について」 参加17名

#### オ. 視察・研修対応

平成23年11月30日、社会福祉法人釧路のぞみ協会からの視察受け入れ。視察者4名

#### カ. その他

・東海ブロック連絡協議会

平成23年6月17日 じゅうろくプラザ(岐阜県岐阜市)

平成24年1月20日 浜松カンファレンスステーション(静岡県浜松市)

#### 4. 平成23年度相談支援状況(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

相談件数および相談実数 相談件数 1010件 (電話問い合わせを除く)  
新規相談者実数 59名

- (1) 新規相談者 (N=59) 年齢構成 平均年齢 44.8歳 男性46名、女性13名
- (2) 新規相談者における原因疾患の内訳  
外傷性脳損傷29名 (脳挫傷21名、びまん性軸索損傷3名、外傷性くも膜下5名)  
脳血管障害23名、脳腫瘍2名、低酸素脳症1名、脳炎2名、ほか (含不明) 7名  
※重複あり
- (3) 居住地 三重県内の市町のうち、11市/14市、5町/15町から相談依頼あり。  
県外からは0県、相談依頼あり。

#### 5. 身障センター訓練終了後の帰結先 (平成13年4月～平成24年3月31日)

訓練終了全ケース数224名

性別 男性192名 女性32名

平均年齢 41.3歳

身障手帳 有155名 無69名

訓練期間 平均日数421.4日 (支援事業前からの利用者も含む)

訓練終了時の一般就労・復学者75名 (33.5%)

訓練終了時の状況 (平成24年3月31日時点)

★雇用就労・就学	75名	33.5%
新規就労	26名	
復職	44名	
新規就学	3名	
復学	2名	
★福祉就労	49名	21.9%
身障授産	29名	
精神障害授産	7名	
小規模作業所	13名	
★福祉サービス	35名	15.6%
身障デイサービス	23名	
療護施設	12名	
★在宅生活・その他 (就労待機・死去・再訓練を含む)	65名	29.0%

#### 6. 問合せ先

〒514-0113 三重県津市一身田大古曾670番地2

三重県身体障害者総合福祉センター 担当 伊藤・田辺まで

TEL059-231-0037 (生活援助棟直通)

FAX059-231-0694

Eメール [tanabe@s@mie-reha.jp](mailto:tanabe@s@mie-reha.jp)

## 1. 支援体制

### (1) 支援拠点機関

- ・ 名古屋市総合リハビリテーションセンター 電話 (052) 835-3811
- ・ 支援コーディネーター 3名

### (2) 概要

名古屋市総合リハビリテーションセンター（以下、名古屋リハ）の特徴としては、『総合拠点方式』と『開放型循環システム』（図参照）があげられる。これらは高次脳機能障害支援モデル事業開始時から機能しており、モデル事業、その後の高次脳機能障害支援普及事業を通して、より高次脳機能障害者に有効なものとするため、ブラッシュアップを図ってきたものである。

#### <総合拠点方式>

医療部門（付属病院）と福祉部門（自立支援法施設）をもち、高次脳機能障害者の安定した生活・社会参加をめざし、受診・評価から訓練、支援まで一貫したサービスを行える機能を有している。高次脳機能障害者にとっては、適切な時期からの連続した訓練・支援の実施が可能（とくに脳外傷者の場合、受傷後の訓練を長期間未実施で受診した者は訓練効果が少ない、行動障害が顕在化している者の割合が高い傾向がみられる）となっている。

#### <開放型循環システム>

社会復帰後に不適応などを起こした人への再訓練・再支援を可能とするシステムで、以下のような対応をしている。とくに脳外傷者は、環境によって安定もすれば不安定にもなり、これに対して医療部門を有し、受診を継続することで状況を把握しやすいことが有効である。

- ・ 就労後、職場でうまくいかず離職した人への再訓練・支援（失敗原因の総括が不可欠）が可能
- ・ 高校や大学へ復学した者が就労する際に職能訓練を実施できる機能。とくに軽症の脳外傷者の場合、一見問題がなくても、遂行機能が必要な業務を求められると、不適応を生じる傾向が高いため、職業生活をシミュレーションできる職能訓練は有効である。また、福祉就労からのステップアップをめざす人、生活の立て直しを図る人などの再訓練・支援なども可能である。

## 2. 数値実績

### (1) 名古屋リハ脳損傷者新患数

402名

<新患内訳 単位：人>

脳外傷	低酸素	脳炎	くも膜下	脳出血	脳梗塞	脳腫瘍	その他
82	13	7	44	99	145	6	6

### (2) 拠点機関実績

専門的相談支援として、マネジメント（ニーズや高次脳機能障害を踏まえた必要な訓練や支援の方向性を具体的に提示し、その後のモニタリングに基づいたフォロー）や関係機関との調整を実施している。

- ① 拠点機関相談数＝実数615名（延：来所1561名 訪問48名 連絡等524名）

<疾患別割合／実数比 単位：％>

脳外傷	低酸素	脳炎	くも膜下	脳出血	脳梗塞	脳腫瘍	その他
62.3	4.6	3.1	10.7	10.9	5.9	1.9	0.6

- ② 拠点機関連携数＝実数 221 件（延：来所 106 件 訪問 64 件 連絡等 484 件）

<連携・支援機関内訳／延べ数比 単位：％>

支援 C/相談機関	施設	医療機関	教育関係	職場関係	家族会	その他
26.6	13.1	23.1	4.6	3.7	5.2	23.7

- ③ 連絡会・協議会＝主催 2 回 講師等協力—  
 ④ 研修会・講習会＝主催 6 回 講師等協力 22 回  
 ⑤ ケース会議・勉強会等＝主催 108 回 講師等協力 49 回

(3) 自立支援法による訓練

- ① 生活訓練入所実績（うち身体障害者手帳未所持）／自立支援法：自立訓練  
 ・ 入所者＝94 名（27 名）—うち脳外傷者 19 名、脳血管障害 42 名  
 ・ 退所者＝58  
 ② 職能訓練利用の実績（うち身体障害者手帳未所持）／自立支援法：就労移行支援  
 ・ 利用者＝105 名（53 名）  
 ・ 退所者＝64 名（33 名）—うち一般就労 34 名（21 名）

3. 普及・啓発

(1) 主な連絡会・研修会主催

- ① 高次脳機能障害支援普及事業相談支援体制連携調整委員会  
 H23/9/28 H23 年度第 1 回（通算 10 回）  
 H24/3/21 H23 年度第 2 回（通算 11 回）  
 ② 講習会・研修会  
 H23/10/8 脳外傷リハビリテーション講習会 テーマ：モデル事業から 10 年、支援普及事業から 5 年、これからの 5 年に向けて 参加 265 名  
 講師：深津玲子（国リハ）、深川和利（名古屋リハ）、尾山芳子（NPO 法人みずほ）  
 H24/2/18 高次脳機能障害専門家研修（精神手帳記載について—病院対象） 参加 87 名  
 講師：新畑敬子（名古屋市精神保健福祉センター所長）、ほか  
 H24/2/25 高次脳機能障害者生活適応援助者（生活版 JC）養成研修報告会 参加 225 名

(2) 主な講師等

- ① 行政関係 7 回（愛知県内）  
 H23/5/20 名古屋市障害福祉事務担当者会議  
 H23/5/25 12/21 豊田市高次脳機能障害者相談会（2 回）  
 H23/8/24 愛知県相談支援従事者初任者研修  
 H24/1/24 岡崎保健所高次脳研修会  
 H24/2/4 豊田市高次脳機能障害関係職員研修  
 H24/2/6 愛知県精神保健福祉センター担当者研修  
 ② 関連機関・家族会関係 15 回（愛知県内）  
 H23/5/8 NPO 法人みずほ総会  
 H23/6 月、8 月（2 回）みずほ高次脳機能障害をもつ親の会  
 H23/6/29 愛知県認定看護師協会研修  
 H23/8/31 愛知県認定看護師協会研修  
 H23/9/22 デイケア学会「高次脳機能障害」部会座長  
 H23/9/23 日本交通医学工学研究会 テーマ：高次脳機能障害—詳細：(3) 記載  
 H23/11/8 愛知県認定看護師協会研修  
 H23/11/25 刈谷市社協障害者相談支援センター講習会

- H23/12/4 名古屋市スクールカウンセラー研修
- H24/1/17 愛知学院大学リサーチ会議
- H24/1/21 1/28 NPO 法人みずほ高次脳機能障害勉強会
- H24/2/10 一宮地区SW協会高次脳研修
- H24/3/25 みずほ高次脳機能障害者研修会「失語症の理解を求めて」

③ 愛知県外 5回

(3) その他

① 研修・見学

ア. 名古屋リハ高次脳見学・研修会

H23/7/27、11/30 参加計 54 機関 (83 名) /今年度は生活支援Cを中心に案内

イ. 外部機関研修・見学

6 機関

ウ. 生活適応援助者 (生活版ジョブコーチ) 養成研修

H23/9/9-9/10 試行と報告 参加 11 団体 (県内 6、県外 5)

H24/2/25 研修報告会 (前記)

② 高次脳機能障害関連機関関係

ア. 関連機関運営施設の名古屋リハ患者の利用依頼

- ・ ワークハウスみかんやま (35 名) /NPO 法人脳外傷友の会みずほ運営
- ・ サポートセンター笑い太鼓 (40 名) /NPO 法人高次脳機能障害者支援笑い太鼓運営
- ・ 高次脳機能障害者支援センター笑い太鼓 (25 名) /同運営
- ・ 高次脳機能障害者支援センター笑い太鼓岡崎 (6 名) /同運営

イ. 名古屋リハ内での高次脳機能障害家族相談会の実施=毎週午後 1 回

ウ. 高次脳機能障害関連施設連絡会一事例検討、勉強会=H23. 11 から毎月 1 回開催

③ 主な学術総会・書籍・調査関係等

ア. 第 20 会日本交通医学工学研究会・学術総会/会長: 蒲澤秀洋 (名古屋市総合リハビリテーションセンター企画・研究局長)

ーメインテーマ: 高次脳機能障害—医学と工学の交通の専門家による討論

ーシンポジウム A: 外傷性脳損傷のメカニズム 松井靖浩 (交通安全環境研究所主任研究員)、篠田淳 (木沢記念病院・中部療護センター副院長・センター長)、小野古志郎 (日本自動車研究所技監・研究主幹)

ーシンポジウム B: 高次脳機能障害と向き合うための今後の課題 阿部順子 (岐阜医療科学大学教授)、安木剛 (トヨタ自動車シニアスタッフエンジニア)、中島八十一 (国立障害者リハビリテーションセンター学院長)

イ. 高次脳機能障害「解体新書」の発刊

ー監修: 阿部順子、蒲澤秀洋 編著: 名古屋市総合リハビリテーションセンター

ー50 シーンのイラストによるエピソード、高次脳機能障害の症状解説、具体的な支援方法などを分かりやすく紹介。家族や職場、学校などはじめて高次脳機能障害者に接する方から専門家までに対応できる一冊

ーメディカ出版 2,800 円 (税別)

ウ. 調査・リーフレット関係

- ・ MTBI の自賠償における高次脳機能障害非該当事例 (画像陰性事例) —国リハの画像陰

#### 性事例調査への積極的協力

- ・ 県内病院の高次脳機能障害への対応調査
- ・ 名古屋リハリーフレットの改定
- ・ 愛知脳損傷協議会（ABIA）リーフレットの刊行

#### 24年度 予定と課題

##### （1）増え続ける高次脳機能障害者への訓練・支援体制の充実

高次脳機能障害者は脳外傷者を中心に継続的支援が必要な人が多いだけに、県内の支援体制の拡充が不可欠となっている。現在は図のように県内の高次脳機能障害関連機関との協力を中心に、支援を行っているが、さらに支援拠点機関を核とした地域の関係機関との連携の体制づくりが急務となっている。

##### ① 名古屋リハの訓練・支援機能の充実（職員の異動等による影響）

—各部署の教育の充実、ボトムアップ

##### ② 愛知県内の支援機関の支援体制充実

- ・ 入口部分：高次脳機能障害患者の受診・評価病院との協力強化
- ・ 出口部分：圏域の相談支援機関の整備、支援力（生活版 JC の手法の活用等）拡充—制度改革（相談支援体系の見直し）を踏まえて
- ケースを通じた具体的支援、事例検討の定例化、愛知県との支援体制の調整

##### （2）その他

##### ① 高次脳機能障害の理解（含、医療機関）の周知

- ・ 研修会、個別ケースを通しての周知、リーフレットや HP 等の媒体による周知
- 現在でも数年後に受診する見過ごされた高次脳機能障害者
- 認知症や発達障害との混乱
- ・ 制度関係（精神障害者手帳、障害年金、自賠責等の手続き方法）の医療機関等への周知

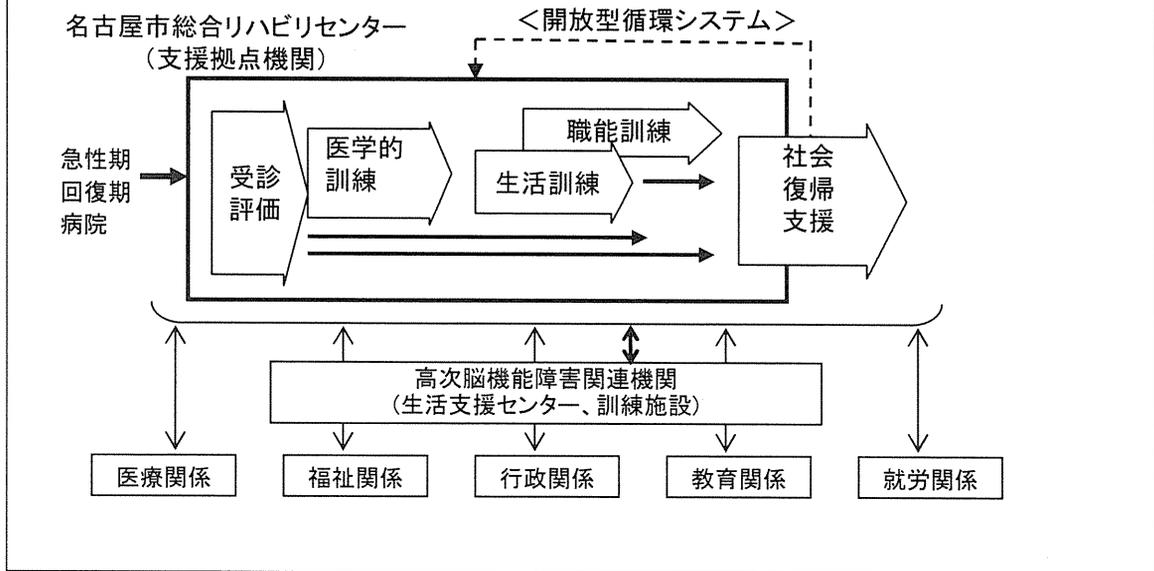
##### ② 多様化している高次脳機能障害者の生活環境

- ・ キーパーソンの不在者（1人暮らし、高齢化等）等への支援の内容の検討

##### ③ MTBI の近年の課題

—自賠責における高次脳機能障害非該当事例（画像陰性事例）—国リハの画像陰性事例調査への積極的協力、対象事例の蓄積

図. 愛知県の高次脳機能障害支援体制



厚生労働科学研究費補助金  
こころの健康科学研究事業  
平成23年度 総括研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究  
分担研究者 野村忠雄  
高志リハビリテーション病院病院長

研究要旨

北陸ブロックでは、富山県、石川県、福井県の3県に設置された地方支援拠点機関および地方自治体との北陸ブロック会議を開催し、各県の高次脳機能障害支援普及事業の円滑なる実施を図った。

A. 研究目的

北陸ブロックにおける高次脳機能障害者への専門的な相談支援のあり方、関係機関との連携のあり方など支援ネットワークの構築および円滑な運用を行った。

B. 研究方法

1. 北陸ブロック会議の開催：富山県高次脳機能障害支援センター(富山県高志リハビリテーション病院)を中心として、北陸ブロック会議を開催し、北陸3県での高次脳機能障害支援ネットワークを構築する。
2. 各県での取り組みに対して助言・支援を行う。
3. 福井県における認知グループ訓練について検討を行う。
4. 今後の課題等について協議を行う。

(倫理面での配慮)

検討では調査対象者の個人情報等に係わるプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分配慮した。

C. 研究結果

1. 平成23年度北陸ブロック会議の開催

日程：平成23年7月30日(土) 福井県医療短期大学 会議室  
出席者：行政関係2名、各県支援センター20名、助言者2名 計24名

1) 現状報告

各県担当者より、取り組みの現状と今年度の予定等について報告があり、意見交換を行った。

2) 話題提供

「支援拠点機関としての集団リハビリテーションの取り組み」について、福井県より話題提供し、意見交換を行った。

3) 今後の課題等について協議

軽度外傷性脳損傷(MTBI)の診断と対応について検討を行った。

2. 平成23年度高次脳機能障害者支援事業の実施実績

3. 個別研究

- 研究1. 石川県高次脳機能障害相談・支援センターにおける相談者の実態について
- 研究2. 富山県高次脳機能障害支援センターにおける就労支援の成果と課題
- 研究3. 若年発症の高次脳機能障害者における家族エンパワメントの評価
- 研究4. 高次脳機能障害者に対する支援と神経心理学的検査結果の推移

D. 考察、結論

平成23年度の活動の特徴は次のように思われる。

富山県では、昨年度に引き続き小児期発症者に対する支援の模索、就労生活支援ネットワークの構築、そのツールとしてのパス作成を進めている。石川県では、生活支援、教室の参加希望者が増加し待機者がでている。福井県ではリハビリ訓練を新聞、テレビ番組(全国版)で取り上げられた。

各県の事業報告や意見交換を参考に、支援の見直しや活動について今後も検討していく。